

2018年11月18日

福音書からのメッセージ

だから、あなたがたは気をつけていなさい。
一切の事を前もって言うておく。

(マルコによる福音書13章23節)

マルコによる福音書13章はしばしば、「小黙示録」と呼ばれます。それは書かれている内容が、「世の終わり」について言及しているからです。終末を強調している教派や教団は、この箇所を拡大理解して恐怖をあおることもあります。しかしイエス様が伝えたかったことは、果たしてどうしたことなのでしょう。

「荒廃をもたらす忌むべきものが立つてはならない所に立つ」という意味不明な記述があったその後に、「読者は理解せよ」と書かれています。現代の日本に生きるわたしたちには、理解は難しいと思います。しかし当時のユダヤ人にとっては、「ああ、あの出来事か」と誰もが思い出すことができました。

紀元前168年に、その事件は起こりました。当時ユダヤはアンティオケアに支配されており、その王アンティオコス4世(通称エピファネス)はユダヤ教を禁止します。さらに彼は、エルサレム神殿にオリンピアのゼウス像を立てさせます。この出来事はユダヤ人にとって、耐えがたい屈辱でした。その後ユダヤ人はこの像のことを、「荒廃をもたらす忌むべきもの」と呼ぶようになります。ちなみにこの「忌むべきもの」は直訳では「吐き気をもよおすようなもの」ですから、その嫌悪感は相当なものだったようです。

人々の心には、この出来事がトラウマのように残っていたのでしょう。だから「読者は理解せよ」と言われたときに、すぐに「あのような出来事のことか」と分かったのです。そしてそのような出来事が、これからは起きるとイエス様は言われます。



終わりのときはいつなのでしょう。ダニエル書やヨハネ黙示録といった

黙示文学に神さまの計画が隠されていると思い、多くの人がその謎に迫ろうとしてきました。しかし今日の箇所からもわかるように、「その日」は突然、何の前触れもなくやってくるのです。だから油断せず、福音を伝えることに忠実でいなければならないのです。

マルコによる福音書13章は、読んでいてとても暗くなる箇所です。しかしここでイエス様は、たとえ今迫害されていたとしても、苦難の中に立たされていたとしても、耐え忍びなさい。そしていつも気をつけていなさい。なぜならあなたがたは、呼び集められるからだと言っておられるのです。

今回の箇所が言わんとしていること、それはこのようなことではないでしょうか。

「あなたがたも覚えているだろう。あの忌まわしい日のことを。終わりの日の出来事はそんなものではない。しかし恐れるな。わたしは天使を遣わして、あなたたちを集める」。その約束は今も続いているのです。

「御国が来ますように」、イエス様に呼び集められるその日を待ち望みながら、祈り続けていきたいと思えます。

桃山基督教会

〒612-8039

京都市伏見区御香宮門前町184

TEL/Fax 075-611-2790

メール momoyama.kyoto@nssk.org

<教会ホームページ>

<http://momoyama.hannari.com/>